令和5年度 **5年経験者研修の手引** 学校栄養職員

福島県教育センター

目 次

Ι	福島県教育委員会 学校栄養職員5年経験者研修 実施要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
П	学校栄養職員5年経験者研修 研修概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	1 研修体系 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	2 研修の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	3 研修の内容等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	4 研修の計画及び実施・運営等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
	5 研修の留意点 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
	【表1】 学校栄養職員5年経験者研修の流れ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
	【表 2 】 学校栄養職員 5 年経験者研修 提出書類一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
Ш	学校栄養職員5年経験者研修 各種様式 ・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
	(様式1) 学校栄養職員5年経験者研修 研修計画書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
	(様式2) 学校栄養職員5年経験者研修 研修報告書 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
	(様式3-1) 学校栄養職員5年経験者研修 「評価表」【校長用】 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 6
	(様式3-2) 学校栄養職員5年経験者研修 「自己評価表」【研修対象学校栄養職員用】・・	• 6
	(様式4) 学校栄養職員5年経験者研修 課題研究レポート ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	• 7

※ 各種様式は福島県教育センターWebサイトに掲載されているので、ダウンロードして 提出書類を作成すること。

I 福島県教育委員会 学校栄養職員5年経験者研修 実施要項

福島県教育委員会

1 目 的

学校栄養職員5年経験者研修は、在職期間が5年に達した学校栄養職員に対して、福島県公立学校 教職員現職教育計画に基づき、より高度な専門的知識・技能を高める研修を行い、教育的指導力及び 資質の向上を図る。

2 基本方針

本県における課題と学校栄養職員に求められる資質や能力を踏まえ、5年経験者研修の対象となる 学校栄養職員(以下「研修対象学校栄養職員」という。)一人一人の専門性の向上や得意分野を伸ばす など、研修者のニーズに応じた実効ある研修を実施する。

3 対 象

- (1) 研修対象学校栄養職員は、次のとおりとする。
 - ① 福島県公立学校の学校栄養職員で、国立、公立又は私立の学校の学校栄養職員等としての経験を含め、在職期間が5年(期限付き等での教職経験を除く。)に達した者
 - ② 前年度までの該当者で、未受講の者
- (2) 在職期間は、次のとおりとする。
 - ① 国立、公立又は私立の学校の学校栄養職員として在職した期間(臨時的に任用された期間を除く)を通算した期間とする。
 - ② 在職期間のうちに次に掲げる期間が引き続き1年以上あるときは、その期間の年数(1年未満の端数があるときは、これを切り捨てた年数)を当該在職期間から除算する。
 - ア 休職又は停職により現実に職務を執ることを要しない期間
 - イ 職員団体の役員として専ら従事した期間
 - ウ 育児休業をした期間
 - エ 私立の学校の学校栄養職員等として在職した期間について、ア又はウの期間に準ずるものとして任命権者が認める期間
 - オ その他
 - (ア) 地方公共団体において定められた条例等の規定に基づき、負傷又は疾病による療養のため 休暇を取得した期間
 - (イ) 国外勤務を命ぜられた配偶者に随伴するために配偶者同行休業を取得した期間
- (3) 次の者は5年経験者研修の対象としないものとする。
 - ① 臨時的に任用された者
 - ② 他の任命権者が実施する当該研修に相当する研修を受けた者
 - ③ 任期を定めて採用された者

4 研修内容

研修対象学校栄養職員は、校外における研修を2日間、校内における研修を2日間、合計4日間の 研修を受ける。

- (1) 校外研修
 - ① 健康教育等研修

学校給食の充実に向けての課題解決や今日的な健康課題に対応するため、衛生管理や食に関する指導等栄養教諭等の実践事例を基にした実践的研修

- ② 情報教育等研修
- ③ その他の研修
- (2) 校内研修
 - ① 本研修の意義について理解し、今日的な健康課題や教育公務員としての資質の向上につながる 研修等
 - ② 授業研究、教材研究等を通した実践的研修等
 - ③ その他の研修

5 実施方法

(1) 県教育委員会は、研修後の研修対象学校栄養職員の能力、適性等について評価を行うための評価

- の項目及び基準等(以下「評価基準」という)を作成する。
- (2) 校長は、(1) の評価基準に基づいて、事前に個々の研修対象学校栄養職員の能力、適性等を把握し、それを基に年間の研修計画を作成する(評価と研修の一体化)。
- (3) 校長が作成した個々の研修対象学校栄養職員の研修計画は、市町村立学校においては市町村教育 委員会に提出する。
- (4) 当該教育委員会は、校長より提出された研修計画について、内容等の確認を行い、必要があれば 調整等を行う。
- (5) 校長は、研修終了時に、個々の研修対象学校栄養職員の能力、適性及び研修成果等を再び評価し、研修報告書とともに当該教育委員会に報告する。
- (6) 校長は、(5) により報告した結果を以後の研修に反映させ、研修対象学校栄養職員の継続的・発展的な指導力向上に努める。

6 指導体制

- (1) 校長、副校長及び教頭は、研修対象学校栄養職員の研修実施に当たり、適宜適切な指導及び助言を行う。
- (2) 当該教育委員会は、校内研修等の実施に当たり、必要に応じて先進的な単独調理場・共同調理場での実地研修等の円滑な実施を図るとともに、適切な指導及び助言を行う。

7 校内体制

- (1) 校長は、研修対象学校栄養職員が教育センター等における研修を受けるに当たり、給食管理等に 支障が生じないよう配慮する。
- (2) 校長は、研修の実施に当たり、学校の協力体制を確立する。

8 提出書類

校長は、研修を実施するに当たり、以下の書類を当該教育委員会に提出するものとする。

- (1) 研修実施前
 - ① 研修計画書
- (2) 研修終了後
 - ① 研修対象教員に係る評価(「評価表」【校長用】)
 - ② 研修報告書

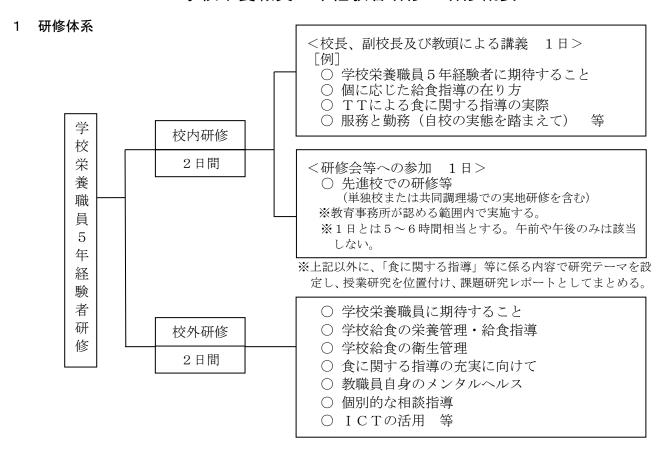
9 補 則

この要項の実施に関して必要な事項は別に定める。

附 則

- 1 この要項は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 この要項は、平成29年4月1日から施行する。
- 3 この要項は、平成30年4月1日から施行する。
- 4 この要項は、令和3年4月1日から施行する。

Ⅱ 学校栄養職員5年経験者研修 研修概要



2 研修の目的

在職期間が5年に達した学校栄養職員に対して、福島県公立学校教職員現職教育計画に基づき、より高度な専門的知識・技能を高める研修を行い、教育的指導力及び資質の向上を図る。

3 研修の内容等

- (1) 校内研修・・・4月~12月の期間で2日、勤務校で計画し、実施する研修
 - ① 校長、副校長及び教頭による講義(1日)

(内容例)

- ○教職5年経験者に期待すること
- ○個に応じた給食指導の在り方
- ○服務と勤務(自校の実態を踏まえて)
- ○TTによる食に関する指導の実際 等
- ② 研修会等への参加(1日)(単独校または共同調理場での実地研修を含む) 先進校での研修等、教育事務所が認める範囲内で実施する研修
- ③ 上記の2日以外に、「食に関する指導」等に係る研究テーマを設定し、TT又は特別非常勤講師制度を活用しての授業研究を位置付け、課題研究レポートとしてまとめる。(様式4)
- (2) 校外研修・・・教育センター等において実施する専門的内容に関する研修(2日) 食中毒防止のための衛生管理、食の安全、肥満等の健康問題や食に関する指導等、学校給食や健 康教育の充実に向け、献立の改善や栄養教諭等の実践事例を基に講義・演習・協議を行う。

※研修期日、日程、内容等の詳細に関しては、教育センターWebサイトに研修講座要項が掲載されているので、年度当初に確認する。

4 研修の計画及び実施・運営等

※研修の流れ、期日等は【表1】【表2】を参照

- (1) 研修計画書の作成・提出について
 - ① 研修対象学校栄養職員が勤務する学校の校長は、下記の評価基準に基づいて、事前に個々の研修対象学校栄養職員の能力、適性等を把握し、それを基に年間の研修計画を作成する。
 - ② 研修対象学校栄養職員が勤務する学校の校長は、「研修計画書」3部を、指定期日までに市町村教育委員会に提出する。

- ③ 市町村教育委員会は、「研修計画書」2部を、指定期日までに教育事務所に提出する。
- ④ 教育事務所は、「研修計画書」(様式1)1部を、指定期日までに教育センターに提出する。

(2) 研修の実施について

- ① 校長、副校長及び教頭は、研修対象学校栄養職員の研修実施に当たり、適宜適切な指導及び助言を行う。
- ② 当該教育委員会は、校内研修等の実施に当たり、必要に応じて指導主事、管理主事及び社会教育指導主事等を派遣するなど、研修の円滑な実施を図るとともに、適切な指導及び助言を行う。
- ③ 校外における研修は、教育センターで計画して実施する。
- (3) 研修報告書・研修評価表の提出について
 - ① 研修対象学校栄養職員が勤務する学校の校長は、「研修報告書」(様式2)、「評価表」(様式3-1)各3部を、指定期日までに市町村教育委員会に提出する。
 - ② 市町村教育委員会は、「研修報告書」(様式2)、「評価表」(様式3-1)の各2部を、指 定期日までに教育事務所に提出する。
 - ③ 教育事務所は、「研修報告書」(様式2)、「評価表」(様式3-1)各1部を、教育センターに提出する。

※研修対象学校栄養職員の自己評価、校長による評価は以下の5段階を基準として行う。

評価	基準
5	指導力及び職務遂行能力は、たいへん高い水準にある。
4	指導力及び職務遂行能力は、一般的な水準を上回っている。
3	指導力及び職務遂行能力は、一般的な水準を満たしている。
2	指導力及び職務遂行能力は、一般的な水準を満たしておらず、努力が必要である。
1	指導力及び職務遂行能力は、最低限の程度を満たしておらず、かなりの努力が必要である。

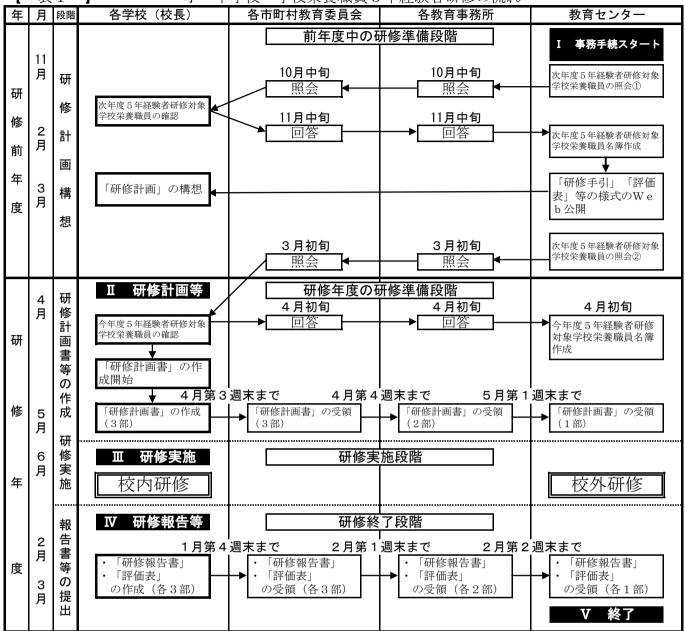
5 研修の留意点

- (1) 各種計画書及び報告書の作成にあたっては、所定の様式により、実施期日や研修内容について具体的に記述する。
- (2) 研修対象学校栄養職員は、研修が終了次第「評価表」(様式3-2) を作成し、校長に提出する。
- (3) やむを得ない事情により当該年度に5年経験者研修を受けられない場合は、市町村教育委員会を通じて教育事務所長に報告する。その場合、該当者は次年度以降に受講する。

また、未受講研修がある場合は、次年度以降に計画書を再提出して実施することになり、その終了をもって5年経験者研修が完了したことになる。したがって、評価表と報告書の提出は終了年度末になる。不明な点が出た場合は、必ず市町村教育委員会、教育事務所に問い合わせる。

- ※学校栄養職員5年経験者研修は、隔年開催であることに注意する。
- (4) 校外研修において、やむを得ず、欠席、遅刻、早退等、研修対象学校栄養職員に関する変更があった場合は、変更しなければならない事由が発生した時点で、校長は教育事務所へ連絡し、後日、市町村教育委員会を通じて、変更願(別冊の「研修講座案内」を参照)を教育センター所長あてに提出する。
- (5) 勤務校、教育センターの研修については、福島県公立学校教職員現職教育計画に示されている基本研修の内容を参照し、研修内容の重複をさけるとともに、一貫性を持たせて成果が上がるようにする。

【 表1 】 小・中学校 学校栄養職員5年経験者研修の流れ



【 表 2 】 小・中学校 学校栄養職員 5 年経験者研修 提出書類一覧

提出者	提出先	提出期限	提出部数	提出書類	提出様式
	市町村教育委 員会 教育長	4月初旬	1 部	研修対象学校栄養職員照会に対する回答	所定様式
		4月第3週末	3部	学校栄養職員5年経験者研修 研修計画書	様式1
実施校 校長			3部	学校栄養職員5年経験者研修 研修報告書	様式2
		年度末 1月第4週末	3 部	学校栄養職員5年経験者研修「評価表」【校長用】	様式3-1 様式4
	教育事務所長	4月初旬	1 部	研修対象学校栄養職員照会に対する回答	所定様式
市町村教育委		4月第4週末	2部	学校栄養職員5年経験者研修 研修計画書	様式1
同时科教育安 員会 教育長		:	2部	学校栄養職員5年経験者研修 研修報告書	様式2
		年度末 2月第1週末	2部	学校栄養職員5年経験者研修「評価表」【校長用】	様式3-1 様式4
	教育センター 所長	4月初旬	1部	研修対象学校栄養職員照会に対する回答	所定様式
		^{年度当初} 5月第1週末	1部	学校栄養職員5年経験者研修 研修計画書	様式1
教育事務所長		tidal o H Me o NH la	1部	学校栄養職員5年経験者研修 研修報告書	様式2
		年度末 2月第2週末	1 部	学校栄養職員5年経験者研修「評価表」【校長用】 " 課題研究レポート	様式3-1 様式4

[※] 提出書類等は、福島県教育センターWebサイトよりダウンロードして作成する。

Ⅲ 学校栄養職員5年経験者研修 各種様式

令和 年度 学校栄養職員5年経験者研修 研修計画書

(様式1)

			学:	校 名							学	校 名		
			校	長 名			公印				校	長 名		公仰
			対象学	校栄養職員名							対象学	校栄養職員名		
1	校内研修(2日間)						1	校内研修(2日間)				
	研修項目	月日(曜日)	会 場	研修日	勺 容	講師・指導助	言者氏名		研修項目	月日(曜日)	会場	研 修	内容	津師・指導助言者氏名
及	長、副校長 び教頭によ 講義							及	長、副校長 び教頭によ 講義					
	[1]							_	[1]					
	研修会等 への参加								研修会等 への参加					
	[1 []								[1日]					
2	校外研修(2 口間)						2	校外研修(2 日間)				
	研修項目	月日(曜日)		研 修	内 容				研修項目	月日 (曜日)		研 修	内 容	
10	育センター 宿泊して実 する研修							14	育センター 宿泊して実 する研修					
※校	【2月】 長印は公印と	する						 ※校	【2月】 長印は公印と	する。				
※溝	師が未定の場合	別度にまとめる。 合は、空構でよい。 参加」の「研修会」↓	は、1日開催のもの	Pで、午前や午後のみ	のものは該当しな	<i>\</i> \\ _€		*Λ	4判1∼2校¥	&慶にまとめる。				
学 職 探 注 :: ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	戦期間は、国立、公 2事項には、国立、	令和 年度 (幸學) 対象者E 年度 在職期 孫年數は、研修年度末期在 立または私立の学校事業 公立または私立の学校事業	ドウンベ、結合の学校省等を 氏名 「「《佐女皇寺 (《佐女皇寺)」 とする。 を属として在職した期間(発養をして在職した期間(性 別 動務施設 特記事項 場時的に任用された期間を解に、資体等の期間が引き続に、資本等の期間が引き続	男・女 年齢	5.	長用】	学 職 文 主 ※在 ※4 ※4	校番号 員番号 用年度 平成 たる事務分字	合和 年度 (60年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 10年 1	研修対象果業務 学校栄養職員 でなる、またのでは、またの	(************************************	修「自己評価表 」 男・女 年費 設	歳
学 職 探 注 :: ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** ** **	交番号 同番号 同年度 平成 にる事務分学 戦期間は国立、公 は事項には、国立、公 は事項には、国立、	令和 年度 (※当体) 対象者E 年度 在職期 係年数は、研修年度実現在 でまたは私立の学校栄養器	下でなく、傾向の学校省から 五名 「個 (《佐枚製作) とする。 個目として在職した期間(発 を確として在職した期間(発 ををとして在職した期間(発	(記載:15.) 学校名 性 別 (最 9.) 勤務施設 特記事項 (場前的に任用された期間を制 (に、育体等の期間が引き続	男・女 年齢	5.	歳	学 教 探 主 ※在在 ※符 6	校番号 員番号 用年度 平成 たる事務分字 飛調問と現任校 線 のでである。 である。 である。 である。 である。 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	今和 年度 (第7年) 対象者氏 年度 在職期 税年数は、研修年度末現在 改革をは私立の学校学者	研修対象果業務 学校栄養職員 でなる、またのでは、またの	 (長が収表へ提出する。) (5 年)経験者研究 (2 年) 学校名 (4 別等の事業) 財務施設 (6 日前24 年) 特記事項 (6 日前24 年) は時期に、官人等の割間が引き 	修「自己評価表 」 男・女 年費 設	⋛」
学職 探注 ※在框件 評領	交番号 日本	令和 年度 (中国な) (中国な	下び、原内の単級省が 大名 (空牧名 生別 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	男・女 年新 男・女 年新 RC を適算した時間とする を1年以上あるときの期待 る。	5. 和李記入する。	歳	学 教 探 主 ※在在 ※符 6	校番号 夏番号 更年度 務分線 無線網に受験のは 1 2 児童の 1 2 との 1 2 にした。 1 2 にした	合和 年度 (他では) 対象者医療 年度 在機解 事度人 在機解 の対象を対象 の対象を対象 の対象を対象 「手引」の「評価基準」 学校所会が成場にいた 学校所会が成場に 、とかき と 放立の下途を発 加を相広く坂り入れ 、中村・手たしがらなど、 いちつない いす・年年度に 定さい になった		第6年条 福州する。 5 年 経験 名 好 イ	 修「自己評価を り 男・女 年費 版 ・ 安 年費 版 ・ 安 年費 版 ・ 安 年費 版 ・ 大している。 	会 歳 6. 歳 例を記入する。
学職 探主 #### 評領域 Ⅰ栄養管理	交番号 日本	令和 年度 (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国を) (中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中国・中	でか、地内の単級等が 大名 開間 (○ 株代の 学校名 学校名 性別 *** *** *** *** *** *** *** *** ***	男・女 年新 (メ) を過剰した対師によう かき1年以上あるときの別録 る。 している。 いる。	5. 和李記入する。	歳	学雅 投 主 在 4	校養書号 展在事務分岐線公立には、 1 平成電子 (東京) 中央	令和 年度 (中でおり) 対象者氏 中央 在戦期! 和書類は、別等変叉更在 立章とは最近の学生を対して 立章とは私の学生を対して の実验担当に基づき と 社立の実施と基づき と 社立の関連が長が、組工科理、 無やべ起しがらなな 加たやはずる。 組工科理、 にやべ起しがらなな ルルギー遊伝に むじた いルギー遊伝に むじた	一学校、養職 目 でから、	3 年	 修 「自己評価を	会 歳 6. 歳 例を記入する。
学職 挟 主 在在特 評領域 Ⅰ栄養管理等 Ⅱ衛生管理等 Ⅲ	交番号 日本	令和 年度 (中国な) 中年度 (中国な) 中年度 (中国な) 中華 (中国な) 中華 (中国 (中国な) 中華 (中国な) 中華 (中国 (中国な) 中華 (中国	では、地内の単位を対して、 大名。 (名画版) (Antwith) (○ 株 15 学校 名 性 別 学校 名 性 別 動務施設 特記事項 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	男・女 年新 (K) を通算した時間とする き1年以上あるときの別録 る。 している。 っている。	5. 和李記入する。	歳	学 雅 投 主 在在约 珍価域 1 栄養管理等 1 物生管理等	検	令和	一学校・美職 自一でなる。本のからからなる。 「一大な、大きないのなからからなる。」 「一大ない、なないのなからなる。」 「一大ない、なないのなからなる。」 「一大ない、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないでは、ないでは、ないのないでは、ないのないでは、よう、カリオなかのに、ないのないでは、ないのないでは、よう、カリオなかのは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないのないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、	5 年 条	 終 「自己評価」を 男・女 年費 股 男・女 年費 (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を) (を)	会 歳 6. 歳 例を記入する。
学職。	交番号 中央	令和 年度 (中国を 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国) 中国 (中	では、原内の単位等なが、 大名。 「個人は のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のである。 のでは、	□ 学校 名 学校 名 学校 名 性 別	男・女 年齢 (パを連集した対応とするときの対称 さる。 している。 っている。 っている。 っている。 さる。 のできている。 との ができている。 との になる。 ではな にないる。 との にないる。	5 5 5 4 3	歳	学 雅	株	令和 年度 (中でな) 「中度 (中でな) 「中度 (中でな) 「中央 (中でな) 「中央 (中域) 「中域) 「中	一学校栄養職員 一学校栄養職員 「一次の、本のからかった。」 「一次の、本のからかった。」 「一次の、本のからかった。」 「一次の、本ののなかった。」 「一次の、本ののなかった。」 「一次のでは、たいのでは、また。」 「一級のは、たいのでは、また。」 「一級のは、上のでは、また。」 「一級のは、上のでは、また。」 「一級のは、上のでは、また。」 「一級のは、上のでは、上のでは、また。」 「一級のは、上のでは、上のでは、上のでは、上のでは、上のでは、上のでは、上のでは、上の	第45条へ指揮する。 5 年 経験 名		意 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高
学 職	交番号 平成	令和 年度 (中国を 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国) 中国)	では、原内の単位等なが、 大名間 () () () () () () () () () (○ 素性 い 学校 名 別 学校 名 別 教務施設 学校 名 別 教務施設 特記事項	男・女 年新 KYを連貫にた対師にする ちき1年以上あるときの別録 る。 している。 っている。 る。 っている。 る。 る。 る。 る。 るるなど丁寧に作っている。	5 5 5 4 3	歳	学 雅 汉 主 在在价 彩電域 1 栄養管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 1 衛生管理等 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株養養年年 でから は ない で で で で で で で で で で で で で で で で で で	令和 年度 (中でなった) 中央 在戦期は、別時年後天皇帝 東央 在戦期は、別時年後天皇帝 東京 在戦期は、別時年後天皇帝 東京 在戦期は、別時年後天皇帝 東京 (『手引」の『評価基準」と 扱っからかき 地域の 実力を決める と 扱っの 実が担めました。 別ったい はいったい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はいまい はい	一学校栄養職員 一学校、養職員 「おいなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないなの」 「ないないないないないないないないないないないないないないないないないないない	3 年	 ** 「自己評価を	意 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高 高
学職 探 主 存在特 語領域 工栄養管理等 工衛生管理等 山食育,学校給食道営等 V職務へ	交番号 平原	令和 年度 (中国を 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国) 中	マウス、地内の平板240% 大名 「	○ 素性 い 学校 名 別 学校 名 別 教務施設 学校 名 別 教務施設 特記事項	男・女 年新 KY を連貫した期間とする 含1年以上あるときの別様 る。 している。 っている。 かできている。 あ、ハる。 かる。 のる。 のるなど丁寧に作ってる。 るなど丁寧に作ってる。	56 A 3	歳	学班 汉主 在在的 经间域 1 栄養管理等 1 衛生管理等 1 衛生管理等 1 魚育・学校会食運営等	株	中度 (中)	一学校栄養職員 一学校栄養職員 「一位の、4年のからから 名。 「一位の、4年のからから 名。」 「一位の、4年のからから 名。」 「一位のでは、1年の	第4年 (最初する) 15 年 (基本) 単	(数) 「自己評価」を (1) 第 ・ 女 年 位	を
学職 [天] 主 存在特 評領域 「栄養管理等 「「衛生管理等 「□食育・学校給食運営等」「V職務への熱	文番号 中央	中国 (中国を) (中国・日本の (中国	では、地内の単位等が 大名 間間 () (本庭職所) よりも、 はいました。 のでは、 ので	○ 大学 (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1) (1)	男・女 年新 (**) 年新 (**) 年新 (**) 年	56 A 3	歳	学 歌 収 主 在本省 3 で	株養書号 マグ 東京	中医 (中医 (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国) (中国)	一学校・美職 信 一学校・美職 信 一学校・美職 信 一学校・美職 信 一学校・美職 信 一学なった。4両のからからなる。 名 「一本ののなった。 「一本ののなった。 「一本ののなった。 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一でも、一ので 一では、一ので 一では、一ので 一では、一ので 一では、一ので 一の 一で<	第4年 (最初する) (最初 を 15 年 を 15		を
学 瀬	交番号 平成	令和 年度 (中国を 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国を 中国) 中国 (中国) 中	では、地内の学校等が 大名。 (本の地域等が 大名。 (本の地域等が を表して、5~1のマン 便能を対している。 を通過を起したという。 を通過を起したという。 を通過を起したないが、 便能を強したないが、 を表したで、5~1のマン 便能を発したないが、 を表したないが、 を表したで、2~1のマン 便能を変したないが、 を表したないが、 を表したないが、 を表したないが、 を表したないが、 の。 を表したないが、 の。 を変ながかできました。 で変ででは上の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。 の。	○ 素が、 学校 名 別 数 移施設 学校 名 別 数 移施設 学校 名 別 数 移施設 事項	男・女 年報 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	56 A 3	歳	学 戦 収 主 在在域 1 栄養管理等 1 物生管理等 1 物生管理等 1 地積・学校給食運営等 1 V職務への熱意や 1 物生管理等 1 1 物生管理等 1 1 の 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	株養書号 マゲ 大	中度 (中度 (中)	一学校、養職 目 でなる。 「	長的様々、指揮する。 5 年後 験 名 好 の	** ** ** ** ** ** ** *	を
学 職	文書号 「	中国 年度 (中国2) 中国 (中国2	マンス、地の中球は30% 大名 「	□ 本 で	男・女 年報 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日	56 A 3	歳	学	株	中	一学校栄養職員 一学校、養職員 「おいった」 「いいった」 「おいった」 「いいった」 「いいった	3 年 経験 名 版	*** ** ** ** ** ** ** ** ** *	意 歳 66. 間を紹入する。 57 (株) 5 4 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
学職 探 主 ※※※ ® 領域 「栄養管理等 「衛生管理等 「山食育・学校給食運営等 「V職務への熱意や向上心等	文書号 「	中国 年度 (中国2) 中国 (中国2	マンス、地の中球は30% 大名 「	○ 大学 (1987) (男・女 年新 K()を選集した別師とする き1年以上あるときの別籍 る。 している。 っている。 っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。 。っている。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。。	5 5 6 5 4 3 4 3	被	学 雅 収 主 在 4 好 配	株養養年 (本) 中央 (本	中原 (中)	一学校栄養職員 一学校、養職員 「おいった」 「いいった」 「おいった」 「いいった」 「いいった	3 年 経験 名 版	*** ** ** ** ** ** ** ** ** *	意 歳 66. 間を紹入する。 57 (株) 5 4 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
学 職 探 主 米学科 評領域 「栄養管理等 「衛生管理等 「宣育・学校給食運営等」 V職務への熱意や向上心等 成果	文書号 「	中国 年度 (中国2) 中国 (中国2	マンス、地の中球は30% 大名 「	○ 大学 (1987) (男・女 年新 (K) を適覧した別師とせき (A) を通覧した別師とせる (A) をもず年以上あるときの別解 (A) のできている。 (A) のできている。 (A) のできている。 (A) のできなど丁寧に作っている。 (A) のでなるとびでいる。 (A) のでなるにおいる。 (A) のでなるにおいる。 (A) のでなるにおいる。 (A) のでなるにおいる。 (A) のでなるにおいる。 (本) は一般	5 5 6 5 4 3 4 3	歳	学	株養養年 (本) 中央 (本	中	一学校栄養職員 一学校、養職員 「おいった」 「いいった」 「おいった」 「いいった」 「いいった	3 年 経験 名 版	*** ** ** ** ** ** ** ** ** *	意 歳 66. 間を紹入する。 57 (株) 5 4 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1
学職 探 主 ※※※ ® 領域 「栄養管理等 「衛生管理等 「山食育・学校給食運営等 「V職務への熱意や向上心等	文書号 「	中国 年度 (中国2) 中国 (中国2	マンス、地の中球は30% 大名 「	□ 本 (1) 単	男・女 年報 (X) を適便した別師とするときの別師 (X) を適便した別師とするときの別師 (X) を適便した別師とするときの別師 (X) を適便した別師とするときの別師 (X) を適便した別師とするときの別師 (X) を適便した別師とするときの別師となるといる。 (X) ないる。 (X)	5 5 6 5 4 3 4 3	被	学 獣 収 主 年本的 非価域 1 栄養管理等 1 断生管理等 1 血食胃・学校給食運管等 1 V職務への熱意や向上心等 成 ***********************************	株	中	一学校栄養職員 一学校、養職員 「おいった」 「いいった」 「おいった」 「いいった」 「いいった	3 年 経験 名 版	*** ** ** ** ** ** ** ** ** *	意 歳 66. 間を紹入する。 57 (株) 5 4 3 2 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1

(様式2)

令和 年度 学校栄養職員5年経験者研修 研修報告書

(様式4)

令和 年度 学校栄養職員5年経験者研修 課題研究レポート

 ※学校執款者の場合
 ※共同調理場裁款者の場合

 学校名
 所属校名

 研修対象職員 氏名
 共同調理場名

 研修対象職員 氏名
 近係対象職員 氏名

研究テーマ ※食に関しての児童生徒の誤魁や、解決を図りたいと考えていることをテーマと して設定する。

- 1 はじめに (研究テーマを取り上げるに至った理由等を簡潔に記載する。)
- 2 本校の実態 (テーマに対しての児童生徒の実態等を記載する。)
- 3 研究の仮説 (~について~をしていけば、~になるであろう。)
- 4 取組みの実際
 (1)
 ①
 ア
 ※授業研究を行う際の指導案形式は、特に定めない。
- 6 課題

【校長(所長)所見】

(※A4判縦置き 4枚程度とする。)